

地理情報を加味した生活サービスの展開事例：少 子高齢と人口減少社会に対応した生活サービスの再 構築に関する研究(その2)

著者	友清 貴和, 金久 絵里, 三堂 早紀子, 本間 俊雄, 鈴木 健二
雑誌名	鹿児島大学工学部研究報告
巻	49
ページ	41-45
別言語のタイトル	Analysis of the Life Service Cases Using the Geographical Data
URL	http://hdl.handle.net/10232/5009

地理情報を加味した生活サービスの展開事例：少子高齢と人口減少社会に対応した生活サービスの再構築に関する研究(その2)

著者	友清 貴和, 金久 絵里, 三堂 早紀子, 本間 俊雄, 鈴木 健二
雑誌名	鹿児島大学工学部研究報告
巻	49
ページ	41-45
別言語のタイトル	Analysis of the Life Service Cases Using the Geographical Data
URL	http://hdl.handle.net/10232/00006847

地理情報を加味した生活サービスの展開事例

少子高齢と人口減少社会に対応した生活サービスの再構築に関する研究(その2)

友清 貴和* 金久 絵里** 三堂 早紀子** 本間 俊雄* 鈴木 健二*

Analysis of the Life Service Cases Using the Geographical Data

Takakazu TOMOKIYO*, Eri KANEHISA**, Sakiko MIDO**,
Toshio HONMA* and Kenji SUZUKI*

This research explores the method of doing the typified life service in the area which considered geographic information and aims at finding out a required viewpoint. But it analyzes and finds out based on the offer form of life service needed for the future society mentioned with previous research.

Keywords: Less children society, Aging society, Population reduction society, Life service

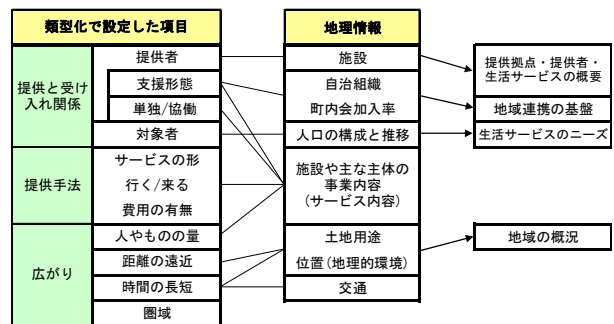
1. はじめに

友清ほか¹⁾によると、類型化した生活サービスを地域で実践するには、類型化で設定した項目を地域の要素におきかえ展開する必要がある。

本論文では、友清ほか¹⁾で導きだされた今後の社会に必要とされる生活サービスの提供形態をもとに、町丁字区から中学校区までの狭域に視点を絞り、展開していく方法を探り、必要な視点を見出すことを目的とする。類型化で設定した項目に対応すると考える地理情報を表-1に、方法は以下に示す。

①位置(地理的環境)と土地利用と交通から地域の概況を押さえる。②施設・自治組織から地域に存在

表-1 類型化で設定した項目と地理情報との対応表

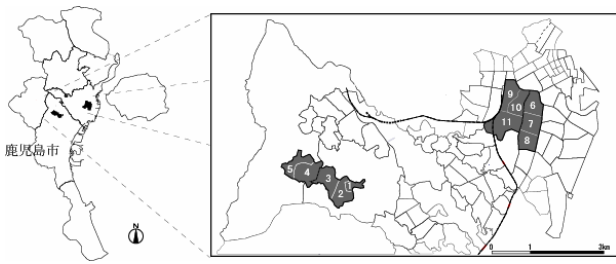


する拠点をおさえ、それらの事業内容をおさえるとともに、類型化した生活サービスの拠点数を導く。
③人口構成と人口割合の推移から生活サービスのニーズを把握する。④②・③を踏まえ、地域に見合った生活サービスを考察し、地域で展開していく際に必要な視点を見出す。

2007年8月20日受理

* 建築学科

**博士前期課程建築学専攻



中学校区	小学校区	町丁字区	図番号
皇徳寺	皇徳寺	皇徳寺台1丁目	1
		皇徳寺台2丁目	2
		皇徳寺台3丁目	3
	宮川	皇徳寺台4丁目	4
		皇徳寺台5丁目	5
甲南	荒田	高麗町	6
		荒田1丁目	7
		荒田2丁目	8
	中洲	中央町	9
		上之園	10
		上荒田	11

図-1 対象地域

2. 地理情報²⁾分析と生活サービスの展開事例

2.1 対象地域の設定と概況

地方中枢都市である鹿児島県鹿児島市の中で、特徴の異なる皇徳寺中学校区^{註1)}と甲南中学校区を対象地域とする(図-1)。以下に対象地域の概況を位置(地理的環境)と土地利用と交通から押さえる。

①皇徳寺中学校区(以下、皇徳寺)

鹿児島市中心部から西に約6km離れた丘陵地にあるニュータウンである。住居専用地域であることから物質拠点が一部に集中しており、また公共交通がバスのみであることから、移動手段は自家用車に依存する傾向がある。

②甲南中学校区(以下、甲南)

鹿児島市のほぼ中央部かつ平地に位置する市街地である。一般住宅と商業地域との複合地域で、各種大学や専門学校、会社が存在し、20歳以上の若者層の入れ替わりが顕著である。また甲南は、公共交通のターミナル拠点でもあり、非常に利便性の高い

表-2 自治組織と町内会加入率

		皇徳寺(郊外住宅地)	甲南(市街地)
自治組織	地域住民組織	公民館審議会・愛護連絡協議会・老人クラブなど	
	NPO法人数	3	16
町内会加入率		87.4%	48.0%

表-3 施設数

	学校教育			社会教育			医療	社会福祉	公園	商業・金融	行政・管理	市							
	幼稚園	学校	専門学校	校区公民館	地域福祉館	自治公民館							児童クラブ	市の施設	医療施設	保育施設	福祉施設	高齢者	公園
施設数	皇徳寺中学校区	1	3	0	2	1	13	2	0	9	4	0	16	1	1	1	1	1	0
	甲南中学校区	3	4	3	2	1	4	2	1	45	4	17	7	2	4	7	5	1	

狭域・中域施設 広域施設

地域である。

2.2 生活サービス拠点の把握

2.2.1 地域連携の基盤

皇徳寺・甲南ともに公民館審議会や老人クラブなどの地域住民組織が存在する。しかし町内会加入率は、皇徳寺が87.4%と高いのに対し甲南は48%と低くなっている。NPO法人数は、皇徳寺が3主体存在するのに対し、甲南は16主体存在する(表-2)。

2.2.2 中心主体(サービス拠点)の把握

地域に存在する施設を学校教育、社会教育、医療・保健、社会福祉など7分野に分類し、地域に存在する施設を押さえる(表-3)。

皇徳寺は公園や狭域施設である自治公民館が多く、甲南は医療施設・高齢者福祉施設が多いのに加え、市や県単位の広域施設も存在する。

2.2.3 提供可能なサービス拠点

前項で挙げられた施設や主な主体の事業内容をおさえ、地域福祉館が所在する皇徳寺2丁目と上之園町に注目して、小さい範囲である町丁字区から順に範囲を広げていき、類型化した生活サービス110項目において地域で展開できる拠点数と主な提供者

表－4 類型化したサービスの提供可能な拠点数

皇徳寺

分野	圏域					
	町丁字区		小学校区		中学校区	
	皇徳寺台2丁目		皇徳寺小学校区		皇徳寺中学校区	
	拠点数	%	拠点数	%	拠点数	%
少子化分野(35種類)	5	14.3%	11	31.4%	11	31.4%
高齢化分野(41種類)	3	7.3%	1	2.4%	4	9.8%
人口減少分野(34種類)	7	20.6%	7	20.6%	11	32.4%
合計(110種類)	15	13.6%	19	17.3%	26	23.6%

甲南

分野	圏域					
	町丁字区		小学校区		中学校区	
	上之園町		中洲小学校区		甲南中学校区	
	拠点数	%	拠点数	%	拠点数	%
少子化分野(35種類)	4	11.4%	7	20.0%	10	28.6%
高齢化分野(41種類)	5	12.2%	11	26.8%	16	39.0%
人口減少分野(34種類)	11	32.4%	12	35.3%	18	52.9%
合計(110種類)	20	18.2%	30	27.3%	44	40.0%

を洗い出し、特徴をおさえる。

(1) 提供可能なサービスの拠点数 (表－4)

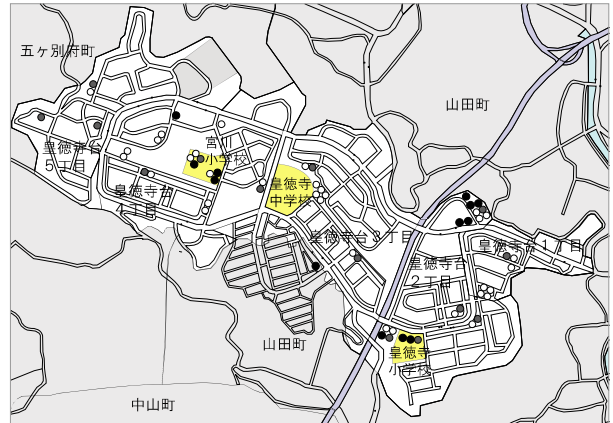
皇徳寺は、町丁字区・小学校区・中学校区と範囲は広がるが、少子化・人口減少分野のように同じ提供可能率であったり、高齢化分野のように町丁字区よりも小学校区の方が低くなったりなど、必ずしも範囲と提供可能率が比例するとは限らない。また分野別に見ると、高齢化分野が少子化・人口減少分野に比べ低いことがわかる。それに対し甲南は、範囲が広がるにしたがって提供可能率が高くなる傾向がある。また、人口減少分野が少子化・高齢化分野よりも高いことがわかる。

(2) 提供可能なサービス拠点の分布(図－2)

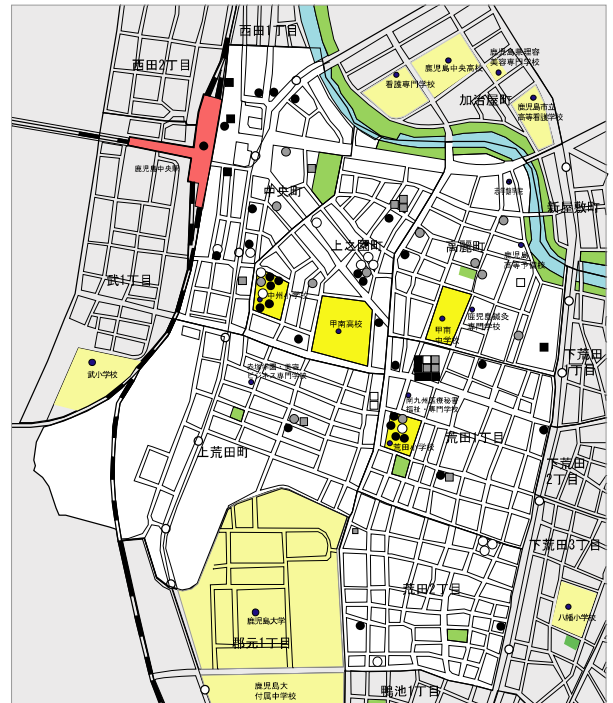
皇徳寺では、狭域で展開するサービスの拠点が存在し、地域福祉館^{注2)}や小学校にある校区公民館^{注3)}にサービスが集中している。甲南では、狭域で展開するサービスに加え、広域で展開するサービスの拠点も存在し、それぞれ校区公民館や児童クラブ、また市の施設に集中している。

(3) 主な提供者

これらの提供可能な皇徳寺の主な提供者は、保



皇徳寺



甲南



図－2 生活サービスの分布図

育園などの民間組織や地域住民組織であり、甲南の主な提供者は、医療法人・社会福祉法人などの民間組織やNPO法人、市区町村である。

2.3 生活サービスのニーズと提供能力の把握

生活サービスのニーズを、人口構成と推移(図－3、4)より推測する。

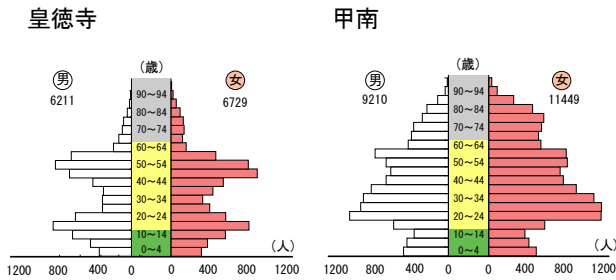


図-3 年齢人口構成 (H18年9月)

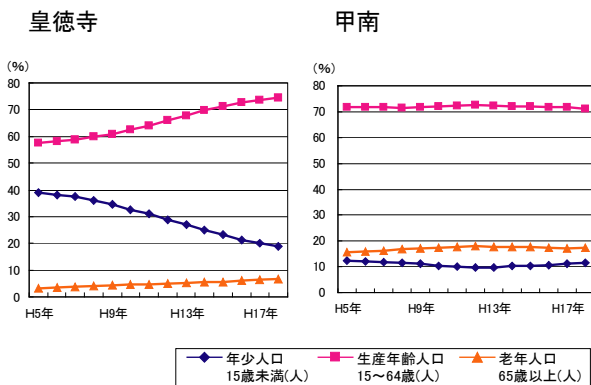


図-4 年齢3区分人口割合の推移

皇徳寺は、10～20・45～55歳層が大部分を占める構成となっている。図-4より、年少人口の割合は、現在H5年と比較すると約半数にまで減少し、急速に少子化が進んでいる。また老年人口の割合は図-3と照らし合わせると、今後確実に高齢化が進んでいくことがわかる。これより、高齢化分野の生活サービスが必要になってくることがわかる。また、壮年後期や高齢期の住民がサービスの提供者として有力であると考ええる。

甲南は、他の地域よりも比較的人口が多い地域である。その中でも、流入人口の多い20～35歳層が大部分を占めている。図-4より、年少人口がH13年から現在まで増加しており、また若者の人口が常に保たれていることから、今後は緩やかに老年人口の割合が伸びてくると考える。しかし、老年人口は他の地域より多いことから、甲南も高齢化分野の生活サービスが必要になってくると考え、サービスの提供者は、青年期・壮年前期・壮年後期の住民が特に

有力であると考ええる。

2.4 地理情報を加味した生活サービスの展開事例の考察

前節の知見を加味し、地域に見合ったサービスの展開を考察する。2.2.3項で導きだした提供可能なサービスの中から、皇徳寺では「防犯ボランティア(c-11-5)」、甲南では「放課後児童クラブサービス(a-8)」を取り上げる。

皇徳寺では、2.2.3項の(3)と2.3節より、地域住民組織が主な主体であることや、今後高齢者の人口が増え町内会の高齢者率が高くなることなどから、友清ほか¹⁾で抽出した事例の「げたばきヘルパー制度」のように、老人クラブや町内会に加入している高齢者が防犯ボランティアの主体となり、いざという時に地域内で解決できるように体制をつくる。また広がり、2.1節より丘陵地であることや高齢者の徒歩圏域を考慮すると、上記の事例のように地域内を分割し、1単位、班～町丁字区の範囲が適正であると考ええる。

甲南は、グループホームが多数存在することから、小学校区単位で設置し行政が提供している既存の放課後児童クラブに加え、友清ほか¹⁾で抽出した事例の「村長の家児童クラブ」のように、社会福祉法人が主体となり、高齢者介護に加え、児童との交流をはかり展開していくことが可能であると考ええる。これらを考慮すると広がり、町丁字区が適正であると考ええる。

3. まとめ

今回は、町丁字区から中学校区までの狭域エリアを事例に分析をした。前章の知見より、類型化した生活サービスを地域で展開する際に必要と考える視点を具体的に挙げる。

①地域の概況(土地用途・位置(地理的環境)・交通)

地域によってサービスの提供可能な範囲や移動に要する負担などが大きく変わるため、土地用途、位置(地理的環境)や交通をおさえる必要がある。

②生活サービス拠点の把握(町内会加入率・自治組織・施設)

地域に見合ったサービスを展開するには、地域に存在する施設に加え、地域住民のつながりやNPO法人による自主的な活動をおさえ、展開できる拠点を見出す必要がある。

③生活サービスのニーズと提供能力の把握(人口の構成・推移)

サービス拠点の見直しや拠点を構築するためには、人口構成よりサービスのニーズや提供能力を見出す必要がある。

①②③の要素をおさえることで、類型化した生活サービスの提供者を地域の実情に見合うように見直すことができる。また、サービス拠点をおさえられ、拠点のないサービスの構築にもつながると考える。

4. 総括と展望

本研究では、少子高齢化・人口減少に関する社会問題を総合的に扱い、現在から近未来を見据えて、生活サービスの展開方法を探ってきた。(その1)では、生活サービスを特徴づける3つの要素①提供者②サービスの形③広がり洗い出した。それより、提供手法・提供と受け入れ関係・広がり3視点を生活サービスの提供形態とし、類型化を行い特徴をつかむとともに、今後の社会に必要とされる生活サービスの提供形態①多様な主体の協働②サービスの展開方法③補完するシステムが挙げられた。(その2)では、前項の知見をもとに、類型化した生活サービスを地域(狭域)で展開していく方法を探り、展開する上で必要な視点①地域の概況②生活サービス拠点の把握③生活サービスのニーズと提供能力の把握の3つの視点を見出した。

今後は、狭域圏で再構築するサービス、広域圏で再構築するサービスなどの複眼的思考を取り入れ、類型化した生活サービスを地域の実情に見合うように適用させ、モデル化し検証を試みる。その一例として、地理情報システム(GIS)によるサービス拠点や拠点間ネットワークの構築と適正規模の検証を行う。

謝辞

本研究は平成17年度科学研究費基盤研究(C)(2)(課題番号17560552)の補助を受けたものである。記して感謝の意を表します。

注記

注1) 厳密には、皇徳寺中学区は皇徳寺台1～5丁目に加え、五ヶ別府町・山田町・中山町も含まれるが、本稿では、ニュータウンの特徴に注目するため、3町丁字は考慮しない。

注2) 地域福祉館とは、地域住民の福祉の増進に寄与する施設で、簡易老人憩の家・福祉ルーム・児童ルームを設置している。

注3) 校区公民館とは、小学校区を単位にしてS48年に設置された公民館制度であり、小学校の敷地内に設置された社会教育施設である。

参考文献

- 1) 友清 貴和・金久 絵里・三堂 早紀子・本間 俊雄・鈴木 健二：提供形態に注目した生活サービスの類型化と考察—少子高齢と人口減少社会に対応した生活サービスの再構築に関する研究(その1)—。鹿児島大学工学部研究報告，49号(印刷中)。
- 2) 本間 俊雄・友清 貴和・松永 安光・豊田 星二郎・福永 知哉(2003)：複層化セル・オートマトンによる地方都市の解析モデル。日本建築学会計画系論文集，568号，pp.93-100。